

廣漢和辭典

上卷

諸橋轍次
鎌田 正著
米山寅太郎

諸橋轍次 鎌田正 米山寅太郎 著

廣漢和辭典

上卷

広漢和辞典 上巻

昭和五十六年十一月三日 初版発行
昭和五十七年三月十日 初版第三刷発行

著者 諸橋 轍次

鎌田 正

米山 寅太郎

発行者 鈴木 敏夫

発行所 株式会社大修館書店

東京都千代田区神田錦町三ノ二四
電話 〇三-二四-三三三 振替東京九四〇五〇四

© T. Morohashi 1981 Printed in Japan
3581-030810-4305

内部交流

S 49/17(沪)

広漢和辞典 上巻

(日 6-2/80-A)

A 01230

序

漢和辞典の大成によって漢字文化の理解と普及を図りたいというのは、私の畢生の願いである。さき大漢和辞典を公刊したのはそのためであり、固より全力を傾け最善を期した作品ではあるが、何分にも戦中戦後、万事混迷不如意の当時のこととて、刊成りてのち内省すれば、幾多意に満たぬものを感じる。これは是非とも機を待って補正すべきだと、第十二巻巻末の跋文に明記した。その素志に従って爾来二十余年、営々事に当たって来た。幸いにも大修館書店はもちろん、幾多の諸君の献身的努力によって、補正の原案は漸次整備されつつある。ただ大漢和辞典の性質上、一時に完璧を求めることは至難であり、この補正の作業は永遠に継続されていくであろう。

さて、今度刊行することになった広漢和辞典は、大漢和辞典が余りにも浩瀚にして一般の利用には繁に過ぎるであろうかとの見解のもとに、上記補正の作業と関連しながら、更に簡にして要を得、広く現代一般社会人の言語生活にも適合できる辞典をという要望に応えんとして、新たに編纂したものである。固より私は老齢その任に耐えないので、私の信頼する鎌田 正・米山寅太郎の両君を中心とし、多数の方々の積極的協力を得て編纂をすすめてきた。

今、本辞典の内容についていえば、即ち現代学術研究の必要性和一般社会人の要請に立って、漢字・漢語を全面的に吟味精選するとともに、広韻を基本として漢字の音韻を明らかにし、近時の研究による甲骨金石学や音韻学の成果をふまえ、漢字の字形や音声の時代的変遷を掲げ、特に音義の類似性に基づく語家族を設定して漢字の語源的説明を詳らかにし、あるいは我が国王朝時代におけ

る漢詩文の語彙を採録し、更には漢籍からの引用に尽く返り点・送り仮名を施して読解の便を図り、漢字の排列や検出にも新工夫を用いる等、幾多の配慮と創意を加えた。いうならば本辞典は、大漢和辞典の新たな分身であり、これまた大約二十年の所産である。

近時、東洋文化の再認識が要望されるおりから、學術の研究はもちろんのこと、広く一般社会の方々が本辞典を利用され、漢字文化の理解と新しい文化の創造に資せられるならば、私の幸いこれに過ぎるものがないであろう。

今年、偶々白寿を迎えたるこの機会に、本辞典の刊行を見るに至ったことは、私の最も欣快とするところ、一言もって序とする。

昭和五十六年十一月三日

白寿翁 諸 橋 轍 次 識

凡例

編集方針

- 1 本辞典は、諸橋轍次著「大漢和辞典」(全十三巻、昭和三十五年)を基本とし、東洋における漢字文化の理解と研究ならびに現代社会における言語生活上必要と見られる漢字・漢語を精選し、漢字の形・音・義と漢語の語彙に関する正確な知識を、専門家はもとより広く一般社会人に提供する目的をもって編集したものである。

収録範囲

- 2 親字は、漢籍に用いられる文字、および一般社会生活の常用字を中心とし、国字・異体字などを含め二万余字を精選したが、特に次の文字はすべて収録した。

ア 「説文解字」所載の文字

イ 常用漢字表および人名用漢字別表の文字

ウ 中国の簡化字総表の第一表・第二表の文字

- 3 熟語は、「大漢和辞典」から漢籍に用いられる漢語を精選して採録したほか、特にわが国王朝時代の懷風藻・勅撰三集・菅家文章・同後草・和漢朗詠集・本朝文粹・同続文粹などから独自の造語とみられる漢語を新たに採録し、漢字で表記される和語をもつとめて収めた。また、格言、故事成語、漢詩文の名句、人名・書名その他の百科項目も豊富に掲げた。熟語総数は約十二万語である。

親字の字体

- 4 常用漢字・人名用漢字の字体は、それぞれ常用漢字表(昭和五十六年十月一日、内閣告示)・人名用漢字別表(昭和五十六年十月一日、法務省令)によった。

- 5 前項の字体が旧来の字体(旧字体)と異なるばあい、常用漢字・人名用漢字の字体(新字体)の下に、旧字体を対照して掲げた。

新字体 旧字体

6 辞 ⑧ やめる ⑫ 辞 ⑬

- 6 常用漢字・人名用漢字以外の親字の字体は、「康熙字典」および「大漢和辞典」に基づき、また中国の簡化字については印刷通用漢字字形表(一九八四年、中国文化部・中国文字改革委員会)によった。

- 7 常用漢字・人名用漢字、あるいはその旧字体が、「康熙字典」で俗字・同字(別体)などとされているばあい、「康熙字典」の正字体をも対照して掲げた。

1 氷 ⑧ ヒヨウ ④ 氷 ④ 正字

13 覇 ⑤ ハ 13 覇 ⑬ 覇 ⑬ 正字

- 8 常用漢字で採用されている新字体が、元来は音・義の異なる別の文字であるばあい、○●……の番号をもって親字見出しを立て、字義も分けて記した。

缶 ⑧ カン ⑬ 罐 ⑬ カン(クワン)

缶 ⑦

- 9 本辞典における字体の区別は、次の通りである。

ア 本字 「説文解字」(以下「説文」と略称)の篆文を楷書に改めた文字で、原字に比較的近い形体をとるもの。

イ 古字・籀文 字書・韻書、特に「説文」に、古文または籀文、あるいは「古」に作るなどと記された文字。

ウ 同字(別体字) 字書・韻書に、「…に同じ」「或いは…に作る」などと記された文字。同音・同義で、成り立ちの上で異なる形体

をとるもの。或体ともいう。本辞典中、Ⅱの記号で示す。

工 俗字・誤字 字書・韻書に、俗字または譌字、あるいは「俗に作る」などと記された文字。一般に俗字は、誤字よりも通行する範囲が広く、その多くは字面の省略された略字である。

才簡化字 中国の簡化字總表（一九六四年）で定めた文字、および第一批異体字整理表（一九五五年）で選ばれた文字の中で字画の著しく簡略なもの。

力 新字体・旧字体 当用漢字字体表（昭和二十四年四月二十八日、内閣告示）、常用漢字表・人名用漢字別表において新たに定めた字体を新字体といい、それ以前に通行していた字体を旧字体という。

親字の排列と見出し

10 親字の排列は、部首順に、同部首内では画数順に、同画数内では起筆法（第12項参照）によった。

11 部首の種類および排列は「康熙字典」に基づいたが、検索の便を図って次の点を改めた。

ア ッ部を新設し、新字体のうち従来の部首に分類し難い單・巢・宮・巖などの字を収めた。その他の新字体について、もとの部首の形が失われた文字は、それぞれの字形的特徴により従来の部首の範圍で新たな所屬を定めた。たとえば、聲（耳部）の新字体の声は士部に、與（臼部）の新字体の与は一部に収めたことなどである。

イ 次の部首は分離した。

刀・リ
とろ

犬・オヘンもの

水・シ
ずいん

心・ホ
ベク
ん
つ
し
ん

手・才へん

火
・
ハ
がれん

网
・
四
めよこ

肉・月ツキ

衣・ネ
へんろ

邑・
乃
おと

阜・ふと

分離した部首は、画数にかかわらずなく、もとの部首のすぐ後に置いた。これらは部首本来の文字が漢字の偏・傍・冠・脚になるばあいに変化した形である。

ただし、岡部から分離した四部には、もと岡部の畏・罪などの文字のほか、もと目部で四の形をもつ眾・衆・羣などの文字もある。

おせ収めた。

また、肉部から分離した月（肉月）の文字は、月（つき）部に
移し収めた。

このようならば、親字見出しの上にもとの部首を表示した。

网 5
【罨】
13066

目 6
【眾】
13071

月 7
望
6953

肉 7
【脱】
6955

次の部首は統合した。

仁がまえ
 ・
 仁がくし

夕・**交**
にすいう
よう

日へひん・日びひち

□・爰は、新字体でそれぞれ□・爰に改められたもので、常用漢字の範囲では形体上の区別がない。このばあいにも、前項と同じく、親字見出しの上にもとの部首を表示した。

工 「康熙字典」の部首分類が合理性を欠き、あるいは検索上不便と認められる文字については、適宜、部首を移した。たとえば、之はもとのノ部3画から、部2画へ、巡はもとの《部4画から走部3画に移したことなどである。

12. 同画面数内の親字の排列は、起筆（第一筆）の形により、次の方法で定めた。筆順の始めに部首があるばあいは、その形を除いた第一筆を起筆とする。

ア 起筆の形を次の五種に分け、順序をつける。

①、(一を含む) …点

② 一 (ノを含む) …… 横

③ — (「を含む」) …… 維

④ノ：揃（左はらい）

⑤「一・レ・乙を含む」：「一・レ・乙」の筆順は、水字の筆順と筆形を応用し、

右の順序は、永字の筆順と筆形を応用したものである。右の順序により排列を定める。起筆が同じ文字は第二・第三筆を同様に順序づけて排列し、以下は五十音による。人部5画を例にとれば、次のような排列になる。

13

佗佇位住……侏余余佞……俱快命但……佚作佐佈
……佻伺伽侶
親字見出しの体裁は、次の通りである。

【果】

④カはたすはてるはて・果物が

アイウエオ

カ

ア 画数 所属する部首内の画数

イ 親字

ウ 親字番号 すべての親字に付した一連番号

エ 常用漢字 常用漢字表にある文字

オ 常用漢字音訓 常用漢字表で認められた音訓。片かなは音、平が

なは訓、平がなの細字は送りがなの部分を表す。

カ 熟字訓 常用漢字表の付表で認められた当て字や熟字訓。

キ その他の記号

① 人名用漢字 人名用漢字別表にある文字。

国字 国字……わが国で作られた漢字。

参照見出し

14

部首のまぎらわしい文字には参照見出しを立て、本来の所属部首と親字番号を示して、容易に検索できるようにした。参照見出しは、字形としてめだつ部分、筆順として始めにくる部分を目安として立てた。たとえば、夜は夕部5画に所属するが、上部分6画に参照見出しが立てられている。

【夜】

ト夕部…2993

所属部首 親字番号

画数の数え方と起筆のとり方

15

画数の数え方、および起筆法による筆形のとり方は、「筆順指導の手

びき」(昭和三十三年三月、文部省)を参考として次のように定めた。
ア 臣は、従来は6画であったが、起筆は1とし、7画に数える。姫・

監などの画数にも適用する。

イ 止・足が他の文字の構成部分となって止・足の形をとるとき、従

来はもとの字より1画少なく数えてそれぞれ3画・6画であった

が、もとの字と同じ4画・7画で統一する。

ウ 亟・極・糸・姊・与・與などに含まれるウの形は、従来は2画で

あったが、弓・弓などのばあいと同じく、1画で統一する。

エ 之を従来のノ部3画・総4画から、部2画・総3画に改めたこと

により、芝・乏・泛などの諸字に含まれる之の形も3画に数える。

オ 上・止の起筆は1とし、叔・洩などに含まれる上・止の起筆にも

適用する。

音 韻

16

字音は、漢音・呉音・唐音・慣用音をあげ、片かなで、現代かなづ

かいによつて表記した。歴史的かなづかい(旧字音)がこれと異なる

るばあいは、(一)に入れて記した。

【一】

イノイチ

【京】

ケイ

キヨウ(キヤウ)

漢音

漢音 呉音

【五】

ゴ

漢音・呉音、同じ

18

唐音・慣用音は、それぞれ④の記号をもつて示した。

19

韻および反切は、「広韻」を基本とし、「集韻」その他の韻書と字書

によつて補った。ただし、韻の分類は百六韻とした。

20

韻目は□で囲み、四隅に小円をつけて声調(四声)を示した。

□…平声 □…上声 □…去声 □…入声

21

現代中国語音は、漢字拼音方案(一九五五年)によつてローマ字で表記

した。標準的な語音に対して異読・旧読の音があるばあいには、（ ）に入れて示した。また、特定の意味に用いられる語音には、親字の意味（字義）の分類番号を記してそれを示した。声調には四種があり、各音節の主母音に次の記号で示されている。

一…陰平声（第一声）　　、…陽平声（第二声）
 ヲ…上声（第三声）　　、…去声（第四声）

一つの文字に二つ以上の字音・韻・反切があるばあいには、
 の番号をもって記し、字義の分類と対応させた。

□□□□

9
【樂】
7703
ㇿラク ㇿガク
ㇿ〔廣〕庫各切 ㇿ〔廣〕五角切
ㇿ ㇿ

①がく。音楽。……

①たのしむ。たのしいたの

23 上古から現代に至る音韻の変化を、解字欄に記した。(第32項参照)

24 音韻の部分の体裁は次の通りである。

$\frac{2}{12}$

㊦ ショウ (ジャウ) ㊦ ショウ (ジャウ)
 ㊦ (廣)時掌切 ㊦ (廣)時亮切 shàng shàng
 ㊦ ㊦

アイウエオカキ

ア 音韻の分類番号

イ
字音（現代かなづかい）

ウ 旧字音（歴史的かなづかい）

工 韻目 韻の名称。漢語の一音節を声母と韻母とに分けて、その韻母を百六種に分類し、同じ韻母をもつ文字の中から代表となる一字を選んで各々の韻の名称に当てたもの。

才 反切の出典 韻書・字書の名称の略号。(第25項参照)

力反切 漢字二字の音の組み合わせで他の一字の音を表す方法。反切の上字（一字め）の声母と下字（二字め）の韻母とを合わせて一音を表す。

キ 中国語音 現代中国語の音。番号を付した音は、その番号の字義

25 反切の出典を示すには、次の略号を用いた。

22 一つの文字に二つ以上の字音・韻・反切があるはないには

……の番号をもって記し、字義の分類と対応させた。

9
【樂】
7703
㇀ラク ㇁ガク
㇀〔廣〕庫各切 ㇁〔廣〕五角切
㇀ ㇁ yue

①がく。音楽。……

①たのしむ。たのしいたの

23 上古から現代に至る音韻の変化を、解字欄に記した。(第32項参照)

24 音韻の部分の体裁は次の通りである。

$\frac{2}{12}$

㒼 ショウ
ウ(ジャウ)
𠂔 (廣)時掌切 ⑨ shàng

アイウエオカキ

ア 音韻の分類番号

イ
字音（現代かなづかい）

ウ 旧字音（歴史的かなづかい）

工 韻目 韻の名称。漢語の一音節を声母と韻母とに分けて、その韻母を百六種に分類し、同じ韻母をもつ文字の中から代表となる一字を選んで各々の韻の名称に当てたもの。

才 反切の出典 韻書・字書の名称の略号。(第25項参照)

力反切 漢字二字の音の組み合わせで他の一字の音を表す方法。反切の上字（一字め）の声母と下字（二字め）の韻母とを合わせて一音を表す。

キ 中国語音 現代中国語の音。番号を付した音は、その番号の字義

25 反切の出典を示すには、次の略号を用いた。

〔解類〕 三解油類解

字義

親字の意味の説明は、**一****二****三**……の番号をもって音韻の分類と対応

味を分けて記した。また、仏教語には**仏**、現代中国語には**佛**の記号を付し、わが国だけに行われる意味（国訓）には**國**の記号を付した。

い意味から新しい意味へと説明することを原則とした。

いで付した。

7
現
10244
㊦ ① あらわれる はあら。 あらわす あらはす

29 訓の意味を明確にし、あるいは記述の重複を避けるため、次の方法をとった。

ア その訓と同じ意味を持つ漢字を（ ）に入れて示し、また、その訓の意味で用いられる語例を「 」に入れて掲げた。

6
【載】
16844
……とし(年)。「千載一遇」

イ 意味が反対になる漢字を↑の記号をもって示した。

①よい……④めでたい。縁起がよい。↑凶

ウ 参考となる項目の番号や熟語を、↓の記号をもって示した。

工 同義である項目の番号を、IIの記号をもつて示し、説明を省略し

6

30 同字・通用字の関係を示すのに、次の記号を用いた。

ア H : 「H A」は、親字がA字と同音・同義であることを示す。

(例) 【坂】さか。H阪。

イ 卩 : 「卩 B」は、B字が親字の意味に使われることを示す。

(例) 【深】①寒気のきびしい形容。……③卩栗。

ウ ↓ : 「↓ C」は、親字がC字の意味に使われることを示す。

(例) 【栗】①くり。……④さむい。↓深。

参 考

31 主に字形や用字、その他の参考事項を、【参考】の見出しの下に掲げた。

解 字

32 上古音(周・秦・漢代)・中古音(隋・唐代)・近世音(元・明代)・現代音を、それぞれ①・②・③・④の記号をもって記し、音韻の変化を示した。音声記号に付した1・2・3・4の数字は声調を表すが、上古・中古音と近世・現代音とで、その表す声調は次の通りである。

(上古・中古音) 1 : 平声 2 : 上声 3 : 去声 無印 : 入声

(近世・現代音) 1 : 陰平声 2 : 陽平声 3 : 上声 4 : 去声

上古・中古音における入声音は、韻尾に・p・t・kの音を持つことから判明するので、番号を省略した。

33 甲骨文・金文、および「説文」所載のすべての篆文(小篆)・或体(別体)・古文・籀文を掲げて字体の変化を示し、六書と文字の構成ならびに原義を記した。会意および形声は、次のように記した。

ア 会意。A+B : AとBの合字であることを示す。

イ 形声。A+B声 : Aが意符、Bが声符であることを示す。また、B省声とするものは、Bの省略体が声符であることを示す。

34 解字を施した文字のうち、上古音の類似と意味の共通性および字形を考慮して、同系統にあると認められる文字(語)のグループを「語

家族」としてまとめ、代表となる文字の下に置いた。たとえば、青の字義は「あおい」であるが、青の語家族に属する星・清・精・晶・晴・浄などの諸字とは上古音が類似し、「すみきっている」という共通の意味を持つ同系統の語として、一つのグループをなしている。

ア 同一の語家族に属する文字を「」に入れて掲げ、その上古音を記した。

イ 語家族内の文字に共通する基本義をへへに入れて示し、総括的な語源解説を施した。

ウ 語家族内の代表字以外の諸字には、Vの記号をもってその代表字と親字番号とを記し、語家族と基本義を参照できるようにした。

35 解字欄を設けた親字の範囲は、「説文」所載の文字、常用漢字、人名用漢字である。また、音韻の変化は、語家族にまとめられた文字の範囲で掲げた。解字欄に関する文字・音韻・語家族などの説明は、付録の解説を参照されたい。

名 乗 ・ 難 訓

36 わが国の人名、また姓氏・地名に用いられる特別な読み方を、それぞれ【名乗】・【難訓】の見出しの下に掲げた。

熟 語 の 排 列 と 見 出 し

37 熟語は、字数や画数にかかわらず二字めの字音によって五十音順に排列した。訓読みする熟語もその字音によったが、字音のない国字は、そのままの読みによって排列した。また、返読する語句で親字が下に来て返り点がつくものは末尾に置いた。

38 見出し漢字の二・三・四以下の文字に、常用漢字・人名用漢字以外の文字があるばあい、△印を付して示した。

【白△楊】
ハクヤウ

39 見出し漢字は、新字体があるものは新字体を用い、二字め以下の文字に新・旧字体の著しく異なるものがあるばあい、旧字体を()に入れて示した。

【經濟(濟)】ケイ

40 二字め以下の常用漢字の字体に対し、出典・引用文の中でその正字や別体(第7項参照)が用いられているばあい、(一)に入れ*印を付して示した。

【堅氷(氷)】ケンペイ……〔漢書、揚雄傳上〕凌堅氷、犯嚴淵。

41 同一の文字で始まる同音・同義の熟語は、一つの見出しの中にまとめた。これらの文字は、同字・正字・古字・俗字など、あるいは互いに通用する関係にある文字である。

【宴遊・宴遊】エンユウ

【専一・専意(意)】センイチ

熟語の読み方と説明

42 読み方は、音読みは片かなで、訓読みは平かなで、現代かなづかいによって表記し、歴史的かなづかいがこれと異なるばあいは、(一)に入れて示した。ただし、熟語の一字めの字音がなづかい(旧字音)は省略した。

【歎楽(樂)極(極)今哀情多】カントラクキョクイマアハナヒ

43 読み方が二通り以上あるばあいは、次のように記した。

ア 読み方が異なっても意味が同じものは並記した。

【尊崇】モン・ソウ

イ 読み方によって意味が異なるものは分けて記し、意味と対応させた。

【人間(間)】カン ①人の世……②カン ひと。

44 熟語に二つ以上の意味があるばあい、①②③……、またその中を⑦①②……、⑦②③……の順をもって意味を分けて記した。また、仏教語には仏、現代中国語には國の記号を付した。

45 同義語は、原則として説明の末尾に加えたが、二つ以上の意味がある熟語ではその一々の末尾に置かず、説明の冒頭に掲げた。また、同義語の参照をもって説明を省略するばあいは、Ⅱの記号を用いて参照する語を示した。

46 反義語は、↑の記号を付して示した。

47 説明の補足・参考のために他の熟語を参照する必要があるばあい、↓の記号を用いて参照する語を示した。

48 人名には、生没年を西暦で、(一)に入れて説明の末尾に記し、中国の史書に伝記があるものには、その書名と巻数を(一)に入れて示した。

また、王朝名には、成立と滅亡の年、および参考になる史書名を同様に記した。

49 「倭名類聚抄」「類聚名義抄」に見られる古訓のうち参考になるものを、それぞれⅢ・Ⅳの記号を付して記した。

出典・引用文および訓読

50 親字・熟語には、漢籍にその出所を求め得たもののすべてに出典を掲げ、熟語については国文古典の出典もつとめて掲げた。

51 出典・引用文は歴史的に古いものを優先して採録し、著名なもの、説明・用例としてふさわしいものを適宜加えた。特に字義の説明において、「説文」は段玉裁の説文解字注本によって全文を引用した。

52 出典の排列は、原則として成立の古い順から歴史的に排列したが、辞書類はその他の出典の前に掲げた。

53 出典名は(一)に入れて示した。

ア 書名には、編目を記した。

イ 詩文名には、作者の時代と作者名を記した。

ウ 「文選」所収の詩文には、文選と記し、作者の時代名を省略した。

エ 詩の題名には、原題に詩・歌・行など詩であることを表す語がないばあい、「詩」の字を付した。

54 書名および注釈を記す上で用いた略称の主なものとは次の通りである。

ア 書名

説文：許慎の説文解字

通訓：朱駿声の説文通訓定声

玉篇：大広益会玉篇

イ

注釈（原注および代表的な注釈のみを掲げる。）

注：易経の王弼・韓康伯注

周礼・儀礼・礼記の鄭玄注

春秋左氏伝の杜預注

春秋公羊伝の何休解詁

春秋穀梁伝の范甯集解

孝経の玄宗御注

孟子の趙岐注

爾雅の郭璞注

荀子の楊倞注

老子の王弼注

莊子の郭象注

史記の三注（裴駰集解・司馬貞索隱・張守節正義）

漢書の顔師古注

後漢書の章懷太子注

楚辭の王逸注

文選の六臣注（李善・呂延濟・劉良・張銑・呂向・李周翰

の注）

伝：書経の偽孔安国伝

詩経の毛亨伝

箋：詩経の鄭玄箋

疏：五経正義の孔穎達疏

周礼正義・儀礼正義の賈公彦疏

春秋公羊伝注疏の徐彦疏

春秋穀梁伝注疏の楊士勛疏

孝経注疏・論語注疏・爾雅注疏の邢昺疏

孟子正義の孫奭疏

南華真経（莊子）注疏の成玄英疏

本義：朱熹の周易本義

蔡伝：蔡沈の書経集伝

集伝：朱熹の詩経集伝

集解：何晏の論語集解

皇疏：皇侃の論語義疏

集注：朱熹の論語集注・孟子集注・楚辭集注

章句：朱熹の大学章句・中庸章句

釈文：陸德明の經典釈文

繫伝：徐鍇の説文繫伝

段注：段玉裁の説文解字注

義証：桂馥の説文解字義証

句読：王筠の説文句読

会箋：竹添光鴻の毛詩会箋・左氏会箋・論語会箋

55

漢文の引用には、口語体の文章（白話文）などで訓読し難いものを除き、全文に返り点・送りかなを施し、かつ難読字には読みかなを適宜付して、読解の便をはかった。訓読の文体は、簡潔を旨とした。

送りかなのつけ方は、おおよそ次の規則によった。

56

活用語は、原則として活用語尾から送る。

イ 自動詞・他動詞の読みわけを明らかにするにあいには、語幹から送る。

送る。

（例）当タル 連ナル 驚カス

ウ 他の語とまぎれやすい語や難読の語は、語幹から送る。

エ 文末の助辞は、慣習によって読むことを原則とし、送りがないを付けない。

(例) 一、初也(なり) 亦不_レ樂_ニ乎(や) 已_ニ矣哉(かな)

オ 再読文字について、二度めに返って読む部分(動詞・助動詞的な読み)の送りがなは、原則として最後の二音を送る。

(例) 當_ニ勉勵_一。(まさニ……ベシ) 未_レ足_ニ與議_一也。(いまタ……ざル) 未・將の終止形には送らない。

(例) 未_レ覺_ニ池塘春草夢_一。(いまタ……ず) 天將_ニ以_ニ夫子_ニ爲_ニ木鐸_一。(まさニ……す)

カ 曰(いはく)・云(いふ)・謂(いふ)などに呼応する「と」は、そのかかる部分が引用文の途中で終るばあいには送り、文末では省略する。

(例) 帝嘗_ニ問_ニ曰_一、創業守文孰_ニ難_一……玄齡曰_ニ、創業則_ニ難_一。(……いはク、……かたキト。……いはク、……かたシ。)

逆引き熟語

57 親字が下につく熟語の例を、字義欄の後に、◇の記号を付して掲げた。

図版

58 親字・熟語の説明の理解に資するため、図版を掲げ、その出典を記した。

索引・付録

59 見返しに部首索引、巻首に各巻所載の総文字を掲げた。その他の索引および付録は、別巻に掲げた。別巻の索引・付録は、次の通りである。

索引：総画索引・字音索引・字訓索引・中国語音索引・四角號碼索引・熟語五十音索引
付録：常用漢字表・人名用漢字別表・中国簡化字一覧・文字音韻解説、その他

主な記号一覧

- ㊦ …… 常用漢字。常用漢字表で認められている音・訓・熟字訓をその下に記す。
- ㊧ …… 人名用漢字
- ㊨ …… 唐音
- ㊩ …… 慣用音
- …… 声調。上から順に、平声・上声・去声・入声を示す。□の中には韻目(百六韻)を表す韻字が入る。
- ㊪(上中下) …… 解字欄で、上から順に、上古音・中古音・近世音・現代音を示す。
- 仏 …… 仏教語
- 現 …… 現代中国語
- 和 …… 倭名類聚抄の訓
- 類 …… 類聚名義抄の訓
- Ⅱ …… 同字。また、同義。
- ↑↓ …… 通用字
- ↑ …… 意味が反対になる文字・熟語
- ↓ …… ……を参照せよ
- △ …… 熟語見出しで、常用漢字・人名用漢字以外の文字を示す。
- ▽ …… 解字欄で、語家族の代表字を示す。
- 〔 〕 …… 出典
- へ …… 解字欄で、語家族の基本義を示す。

[illegible]

夕 102 𠂆	厂 101 𠂆	ナ 100 𠂆	乂 99 𠂆	メ 98 𠂆	メ 97 𠂆	一 画 一	人 96 𠂆	乚 95 𠂆	乚 94 𠂆	ノ 93 𠂆	ノ 部	(丽上七) 七 画 𠂆	(牀上五) 六 画 𠂆	𠂆 92 𠂆	五 画 𠂆	(永中六) 五 画 𠂆			
(升上四七) 𠂆	(午上四六) 𠂆	(之上七) 𠂆	𠂆 114 𠂆	𠂆 113 𠂆	𠂆 112 𠂆	三 画 𠂆	(千上四四) 𠂆	(九上三四) 𠂆	𠂆 111 𠂆	𠂆 110 𠂆	𠂆 109 𠂆	𠂆 108 𠂆	𠂆 107 𠂆	𠂆 106 𠂆	𠂆 105 𠂆	(九上六) 𠂆	𠂆 104 𠂆	乃 103 𠂆	
𠂆 123 𠂆	𠂆 122 𠂆	𠂆 121 𠂆	五 画 𠂆	(无中二画) 𠂆	(失上八五) 𠂆	(奄上七) 𠂆	(丘上五) 𠂆	𠂆 120 𠂆	𠂆 119 𠂆	𠂆 118 𠂆	𠂆 117 𠂆	𠂆 116 𠂆	𠂆 115 𠂆	四 画 𠂆	(爪上二三) 𠂆	(屯上二五) 𠂆	(天上八三) 𠂆	(壬上五) 𠂆	(王上六九) 𠂆
八 画 𠂆	(秉下六) 𠂆	(垂上六四) 𠂆	𠂆 130 𠂆	七 画 𠂆	(我中二六) 𠂆	(兵上五九) 𠂆	(兔上三四) 𠂆	𠂆 129 𠂆	六 画 𠂆	(自下二八三) 𠂆	(朱中五) 𠂆	(年上二七) 𠂆	(先上二六九) 𠂆	𠂆 128 𠂆	𠂆 127 𠂆	𠂆 126 𠂆	𠂆 125 𠂆	𠂆 124 𠂆	𠂆 123 𠂆
(筵上二三) 𠂆	十三 画 𠂆	𠂆 140 𠂆	十二 画 𠂆	𠂆 139 𠂆	𠂆 138 𠂆	𠂆 137 𠂆	𠂆 136 𠂆	十 画 𠂆	𠂆 135 𠂆	𠂆 134 𠂆	𠂆 133 𠂆	(重下九七) 𠂆	(禹中四二) 𠂆	(卑上四六) 𠂆	𠂆 132 𠂆	𠂆 131 𠂆	𠂆 130 𠂆	𠂆 129 𠂆	𠂆 128 𠂆
四 画 𠂆	(孔上九六) 𠂆	(乳上七) 𠂆	𠂆 152 𠂆	𠂆 151 𠂆	三 画 𠂆	𠂆 150 𠂆	𠂆 149 𠂆	𠂆 148 𠂆	𠂆 147 𠂆	𠂆 146 𠂆	二 画 𠂆	𠂆 145 𠂆	𠂆 144 𠂆	一 画 𠂆	𠂆 143 𠂆	𠂆 142 𠂆	𠂆 141 𠂆	乙 部	乙 部
𠂆 167 𠂆	𠂆 166 𠂆	八 画 𠂆	(鼠下四九) 𠂆	𠂆 165 𠂆	𠂆 164 𠂆	𠂆 163 𠂆	七 画 𠂆	𠂆 162 𠂆	𠂆 161 𠂆	𠂆 160 𠂆	六 画 𠂆	𠂆 159 𠂆	𠂆 158 𠂆	𠂆 157 𠂆	五 画 𠂆	𠂆 156 𠂆	𠂆 155 𠂆	𠂆 154 𠂆	𠂆 153 𠂆
(子上一二) 𠂆	二 画 𠂆	𠂆 177 𠂆	一 画 𠂆	𠂆 176 𠂆	𠂆 175 𠂆	𠂆 174 𠂆	𠂆 173 𠂆	𠂆 172 𠂆	𠂆 171 𠂆	𠂆 170 𠂆	𠂆 169 𠂆	𠂆 168 𠂆	𠂆 167 𠂆	𠂆 166 𠂆	𠂆 165 𠂆	𠂆 164 𠂆	𠂆 163 𠂆	𠂆 162 𠂆	𠂆 161 𠂆
十五 画 𠂆	十一 画 𠂆	(承中二五) 𠂆	(爭上二二) 𠂆	𠂆 186 𠂆	𠂆 185 𠂆	七 画 𠂆	(周上三四) 𠂆	𠂆 184 𠂆	𠂆 183 𠂆	𠂆 182 𠂆	𠂆 181 𠂆	𠂆 180 𠂆	(爪上二三) 𠂆	𠂆 179 𠂆	𠂆 178 𠂆	𠂆 177 𠂆	𠂆 176 𠂆	𠂆 175 𠂆	𠂆 174 𠂆
互 202 𠂆	𠂆 201 𠂆	𠂆 200 𠂆	𠂆 199 𠂆	𠂆 198 𠂆	𠂆 197 𠂆	𠂆 196 𠂆	𠂆 195 𠂆	𠂆 194 𠂆	𠂆 193 𠂆	𠂆 192 𠂆	𠂆 191 𠂆	一 画 𠂆	𠂆 190 𠂆	𠂆 189 𠂆	𠂆 188 𠂆	二 部	(豫上二二) 𠂆	𠂆 187 𠂆	𠂆 186 𠂆
𠂆 215 𠂆	𠂆 (210) 𠂆	𠂆 214 𠂆	六 画 𠂆	𠂆 213 𠂆	𠂆 212 𠂆	𠂆 211 𠂆	𠂆 210 𠂆	𠂆 209 𠂆	𠂆 208 𠂆	𠂆 207 𠂆	𠂆 206 𠂆	四 画 𠂆	𠂆 205 𠂆	𠂆 204 𠂆	𠂆 203 𠂆	𠂆 202 𠂆	(元上二六) 𠂆	𠂆 201 𠂆	𠂆 200 𠂆

[illegible]

休	全	全	傳	伝	會	会	伐	伏	伉	伉	伉	伙	伞	仿	伉	四	伉	仞	他
320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305		304	303	
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	四	二	二	二
件	件	仉	份	份	价	众	伶	仲	佖	企	佢	佻	优	偃	佞	伏	佞	伍	伎
340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	326	325	324	323	322	321
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
佇	佗	五	休	余	从	合	侏	侏	伊	仔	仰	伋	役	伋	倅	倅	倅	倅	任
355	354		353	352	351	350	349	348	347	346	345	344	343	342	341				
二	二	五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
体	休	休	估	征	佞	佞	余	余	余	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	位
375	374	373	372	371	370	369	368	367	366	365	364	363	362	361	360	359	358	357	356
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
但	伸	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但	但
395	394	393	392	391	390	389	388	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378	377	376
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
伽	佛	伺	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞
414	(279)	413	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
试	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞
429	428	427	426	425	424	423	422	421	420	419	418	417	416	415	414	413	412	411	410
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
侄	例	佰	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞
448	447	446	445	(7215)	444	443	442	441	440	439	438	437	436	435	434	433	432	431	430
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
侑	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞
468	467	466	465	464	463	462	461	460	459	458	457	456	455	454	453	452	451	450	449
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞
483	482	481	480	479	478	477	476	475	474	473	472	471	470	469	468	467	466	465	464
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞	佞
503	502	501	500	499	498	497	496	495	494	493	492	491	490	489	488	487	486	485	484
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二